

2011.2.15

Contents

外断熱のことを教えてください

- HABITAな風景
- 住まいは巢まい
- キニナルマドリ
- 住まいのオーダーメイド館403
- 住まい文化の葉
- 住健住康
- Green Earth
- わたしたちのHABITA
- 豆ハビ
- 5th ROOM



HABITAな風景

子どもの好きなところ

うちには、真四角な部屋はない。真っ白な部屋もない。友達の家とは、ちょっと違っていて、子どもは最近気づいたみたい。そろそろ自分の部屋が欲しいかなって聞いたら、「すみっこがいい」って。だから、2階の屋根のすみっこがとってもお気に入り。物を置いてやくうちに、なかなかサマになりました。広々している空間よりも、斜めの天井で低くなっているところにいつもいる。反対側の屋根のすみっこは主人の書斎になって…。天井に鼻をくっつけて匂いかぐなんて、普通の家じゃできないもの。

三澤 千代治の

住まいは巢まい

子どものための住まい

私はかねがね「住まいは何か」と問われたとき、「住まいは巢まい」であり、「住まいは子育ての場」とであると、唱えてきました。

その想いを計画面で天井の高さやインテリア、家の中をぐるぐる回れる動線にする間取りなど、さまざまに落としこんできました。

最近、夢を語る人が少なくなりました。世の中のためにと志を持つ人もめっきり減った。だからビジョンが描けない。大人が目を輝かせて話し、子どもが食い入るような精気ある眼差しで聞き入る光景もなくなりました。

こうした状況の中で、子どもは家族団らんも知らず、孤立していく。豊かさの時代とはいふものの、その実態はどうも物の豊かさに片寄りすぎ、その分心が貧しくなったようにも感じるので。それが子どもに伝わらないはずがありません。

戦後を生きてきた私たちは、今こそ一人ひとりがそれぞれの立場で、次代を担う子どもたちのために何をしなければいけないのかを考え、実行しなければならぬと思うのです。

住まいの会社としては、改めて心の豊かさを実現する一翼を住まいが担っていることを肝に命じなければと思っています。

住まいは人間形成の場として伝統、文化、美意識、創造性、そして人間関係を学び、真の人間として成長していく場、なのですから一。

(MISAWA・international 社長)

Weekly HABITA 045

「コマーシャルでも時々『外断熱』という言葉を見ますが、普通の断熱とどう違うのですか？」

Q そもそも外断熱ってすごいことなんですか？

A 断熱性能が優れた家が大切なのは良く知られていることです。断熱とはその文字の通りに、熱を遮断することを意味します。単純な床、壁、天井を作っても、吹きさらしに比べたらそれなりに熱を遮断できます。それ以上に現代の家では、特に熱を伝えにくい素材の開発が進み、断熱材として各部位に入れられ、熱性能が向上しています。その意味では常に居住空間の外側に断熱材はあるものです。

断熱材を、ただ入れれば良いということではありません。断熱によって生まれる結露の問題や、熱特性の問題もあります。さまざまな断熱への手法があっても良いことです。「外断熱」には「外」がつく以上、単純な断熱ではないイメージがあります。「外断熱」という言葉が耳に新し

いので、新技術のように感じますが、少し理解ができると断熱材が外側にあるのは当たり前のことになります。

Q 断熱材はどんな風に入っているのですか？

A 工事現場などで、断熱材を見かけたことがあるでしょうか。一般的によく使われているのは、グラスウールという素材です。読んで字のごとく、ガラスでできた綿状の繊維でできていて、10cm前後の黄色いマット状になっているものが一般的です。

他にもロックウールと呼ばれる断熱材がありますが、どちらも片面にはビニールのシートが付いています。このシートは防湿の役割を果たすものです。シート上には施工上のミスを防

こんな質問が寄せられました。誰もが冬暖かくて夏涼しい家が理想であると考えます。特に冬の最中には、寒さが身体にこたえ暖かい家を求めます。

「外断熱」と言うのが、何の外に断熱があつて、どのような効果をもたらすのか、住宅の選び方も含めて、少し詳しく質問に答えてゆきたいと思います。

ぐために、「この防湿層を内側に施工してください」と書いてあります。つまり断熱材は防湿層の外側に施工しないといけません。それは内部結露を防ぐための大事な施工方法なのです。



Q & A 外断熱のことを教えてください。

Q 内部結露ってなんですか？

A 空気中には常に水蒸気が含まれています。空気中に含むことのできる水蒸気の量は温度に比例します。つまり温度が高いほどに絶対的な水蒸気量も多くなります。夏に冷たいコップの周りに水滴が付くのも、コップの周りの温度が低いために、その部分の水蒸気量が余ってしまい結露したものです。温度差があるところでは常に、結露の問題がついて回ります。この結露が、断熱材を入れている建物の内部で発生するのが内部結露です。断熱材についている防湿層は、内部結露を防ぐためのものです。

断熱材や防湿層は、基本的に熱や湿気を遮るものです。これらの材を境にして、両側で熱や湿気の差ができます。温度と水蒸気量を断面図の中に描いてみるとその分布の段差として描かれるのでわかりやすくなります。

図1、2は、冬の壁の断面で左側が室内、右側が屋外の設定になっています。冬の暖房時、温度の赤い線は室内の左側が高く、屋外の右側では低くなります。図1では防湿層の外側に断熱材がある通常の分布を記しています。

もし間違えて防湿層を外側にした場合の分布は、図2となります。防湿層が外側にあるので、水蒸気量が温度の下がっているところまで届いてしまい、そこで結露を起こすことになってしまいます。

通気のあるところでの結露であれば乾くのですが、もっとも手に負えない内部結露となります。この単純なミスを防ぐために、断熱材の防湿シートには前述のような注意書きが印刷されているのです。

つまりどの様な構造体の家でも必ず、断熱材は防湿層の外側に配置しなければなりません。

Q 外断熱にした方が良い建物ってあるのですか？

A 本来検討すべきなのは、柱や梁などの構造体と断熱材の位置関係です。一般的な木造住宅では、柱や梁の両側に面材を張り、この間に断熱材を入れます。この場合、柱や梁の部分は断熱材がありませんが、木材というのは熱を通しにくいという性質を持っていますから、問題はありません。一般の木造住宅だけでなく、2×4でも同じことです。

ところが、構造体を鉄骨で作った場合には状況が一転します。鉄というのは木材の450倍、断熱材の1000倍も熱を通しやすいので、壁の間に挟み込まれた鉄の柱が内外に通じてしまうことで、この部分だけが熱を渡す橋のようになってしまいます。このような状態を、その名の通りにヒートブリッジ(熱橋)と呼びます。

Q ヒートブリッジは何が問題なのですか？

A ヒートブリッジでも、問題となるのは内部結露です。しかも断熱材のような水分を吸ってしまうものに接

して結露を起こすことが最悪の事態であり、欠陥と言われても仕方ありません。そのために構造材の外側に断熱材を配置するのは鉄骨造の宿命でもあります。逆に言うと、構造体が鉄骨でありながら、外断熱とか外張り断熱とアピールする企業があることは、消費者の心理をもてあそんでいる行為であると言えます。

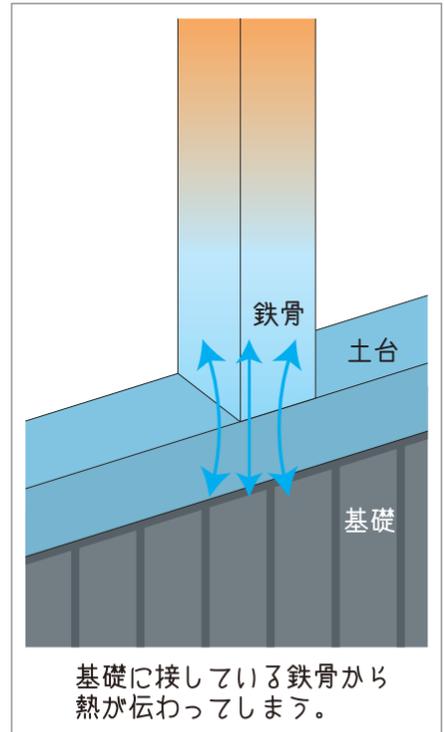
Q 鉄骨の家だと、外断熱が当たり前なんですか？

A そうです。さらに見落としがちなのは、ヒートブリッジは基礎の上にも敷かれた土台にも考えなければなりません。柱や梁の外断熱ができて、土台は基礎に直結する必要があり、どうしても土台までは熱が伝わってしまいます。構造体というのは、しっかりと緊結されていますので土台が冷えればその熱は当然のように、柱の下部に伝わることになります。柱の外で断熱しても土台経由でヒートブリッジが起きてしまいます。

これを対処するには、基礎を含めて外断熱するしかありません。さらに、基礎の外断熱により基礎の通気ができなくなりますので、これをどのように対処するかが企業の腕の見せ所です。鉄骨造の住宅では、基礎までを含めて外断熱するのが当たり前です。

Q コンクリートの家では、どうなるのですか？

A 実は、先の基礎の断熱のようにコンクリートの外側で断熱するのは、外断熱の大切なポイントです。コンクリートは、熱の伝わり方とは別に、熱を蓄えることができる材料です。



たとえば寒い外気の中に置かれていた、木材と鉄とコンクリートに触ったらどのように感じるでしょうか。基本的には同じ温度のはずですが、手で触ると冷たさの違いを感じます。表面の粗さによる接触面積の差が要因のひとつでもあります。それぞれの熱の特性によるところもあります。

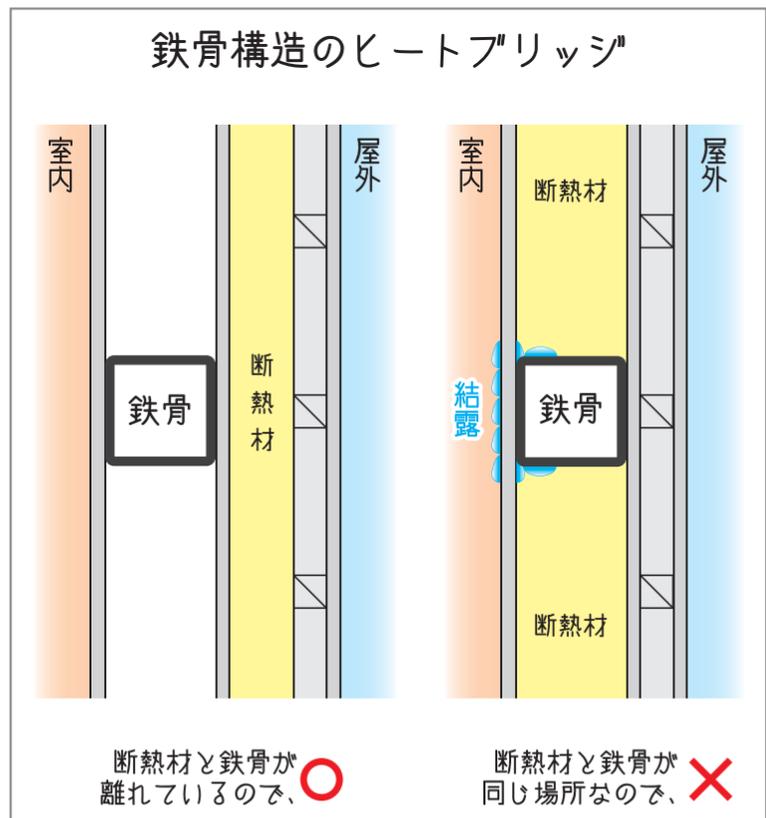
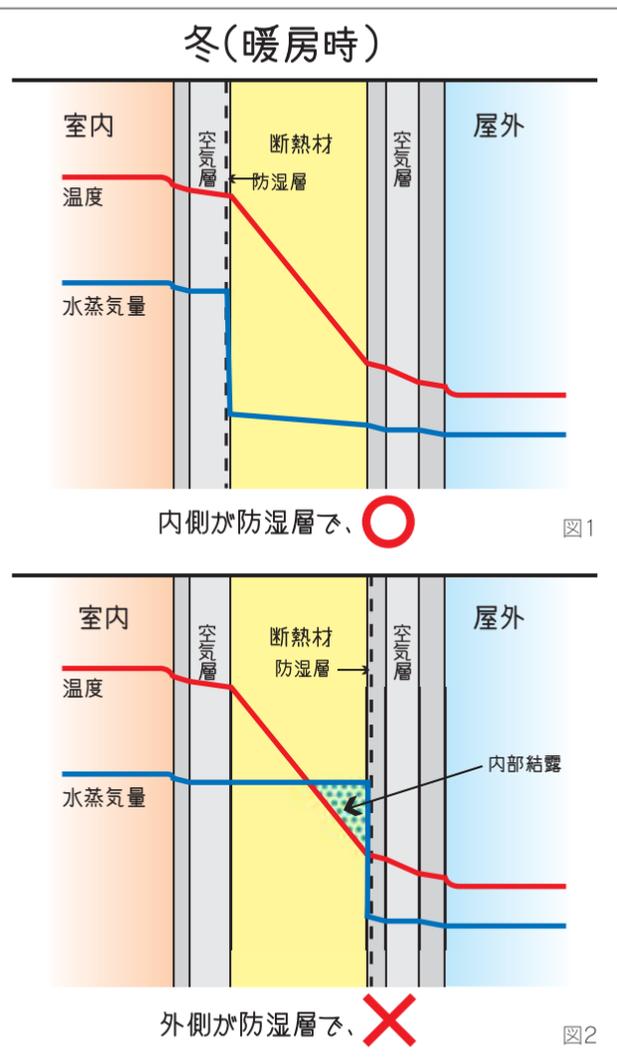
木材は熱の伝導率が低いので、手の熱が表面に伝わると保持されます。しかし鉄は伝導率が高いので、熱は次から次へと伝わることで手の熱が奪われてゆきます。そのため木材よりも鉄の方が冷たく感じます。

コンクリートは、伝導率よりも熱を蓄える容量が大きい素材です。鉄の伝わり方とは別で、じんわりと長い時間をかけて熱が奪われてゆきます。木材には熱を全部奪われてしまう心配はほとんどありませんが、鉄やコンクリートにはその心配があるのです。

逆に、このコンクリートのような熱を蓄える性質を活用することも考えられます。熱容量が大きいことは、暖まりにくく冷めにくいということ。適温が保たればむしろ快適さが持続できることとなります。

この熱を蓄える特性を快適さを求める室内側に取り込んでしまえば良いのです。つまりコンクリートなどの熱容量の大きなものの外側に断熱材を配置すれば、夏は暑くなりやすく、冬は寒くなりやすい家が実現できます。まさに外断熱が本領を発揮する状況ができあがります。

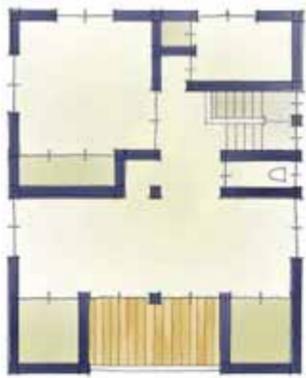
これまで詳しく書いてきたように、一般的な木造住宅で検討をする場合には、外断熱も普通の断熱も変わりはありません。しかし、鉄骨の住宅では外断熱や外張り断熱でなければなりません。同様にコンクリートの住宅には、外断熱を考えておくのが良く、熱の特性を活かすことができます。



キニナルマドリ



1階 20坪



2階 18坪

棟持ちの柱

日本の民家は、東西に棟を持つことが多い。一部の合掌造りを除けば、全国にある標準の造りである。

そして風水や家相を重んじ、巽の角に土間の入り口を設けて出入りする。

この基本的な家の造りに象徴的なのは、東西にかかる棟を支えるための棟持ちの柱である。まさにその柱が、大黒柱である。この家の棟持ち柱は、和室とダイニングの仕切となり、和室の地板にまるで床柱のように鎮座する。そして2階の小

屋組みには、棟持ち柱と牛梁を仰ぎみる事ができる。



HABITA 静岡第一建設



住まいのオーダーメイド館

一坪结界 (茶室ユニット)

一坪结界はユニット式の和室、一坪の和の空間が家の中に出現する驚きの組立てキットです。ベースとなるのは木の枠組みに2畳分のスペースを配した基本

ユニット。この躯体にオプションパーツを組み合わせることでお好みの空間をつくることができます。

茶室ユニットは、基本キットに床の間ユニットと障子2枚、竹戸2枚を組合わせたものです。

畳の下は深さ28cmの収納部で、趣味の道具などを整理・収納できる便利空間となっています。

癒しの場、趣味の場、学習の場などライフスタイルにあった様々な「場」と

して活用されています。

本体はドライバー1本で簡単に組立てできるように配慮されています。

サイズ:W1927×D1927×H2100mm
材質:ヒバ材
商品価格:¥575,400(税込)
403掲載商品No. G-0067_001

住まいのオーダーメイド館 403
東京都新宿区新宿1-2-1-1F
<http://order403.com/>

403

検索



住まい文化の栞

「きつね」と「たぬき」

建築の世界に動物の名前を探すと、昔の人の思いがわかります。身近な存在であった「ねこ」の他にも、さまざまな動物がいます。「きつねの嫁入り」や「きつね憑き」など、人と化かし合いをする動物として昔話などに良く出てくる「きつね」。身近には、どこかの稲荷神社に行っても、狛犬の代わりに狐が迎えてくれます。



この名を取ったものに「きつね格子」があります。一般的には、格子の目を正方形にして細かく組んだものを呼びます。原点は宮殿や社寺づくりなどの屋根の入母屋部分の妻飾りに使われていた格子です。1寸弱の縦棧の

裏から、同じ大きさの横棧を相欠きで細かく組んで格子を作り上げます。基本的には入母屋の妻部分をよこすためのもので、裏から板が張ってあります。社寺や宮殿、城郭ではよく使われているので、入母屋をデザインする時には、日本的な印象を形成するポイントにもなります。

この部分に換気のための開口を設けると、「狐窓」で、そこにはめられた扉は「狐戸」と呼ばれます。

ただしこれまでの動物のように、モチーフ化された呼称とは思えず、「木連」がなまって「狐」と呼ばれるようになったとされています。

狐との化かし合いで双壁に上げられるのは、「たぬき」です。同様に昔話でも、良く出てきますが、この動物が使われているものに、「狸漆喰」

があります。石灰に粘土、砂、切と糊分を混ぜた漆喰で、昔は一般的な漆喰でもありました。残念ながら、この名前の由来には、いずれも古人の動物の想像力を感じさせてはくれません。

住 健 住 康

じゅうけんじゅうこう

家計図で深める親子の絆

冠婚葬祭の席などで、以前会ったことはあるもののどうしても名前が思い出せないことが、一度はあるのではないのでしょうか。

親の世代はまだまだ子たくさんな家族が多かったため、親戚の数も多く、名前や顔を覚えるのがたいへんです。そこで、親の記憶がしっかりしているうちに、家系図を書いてもらいましょう。親戚の名前を知ることながら、自分のルーツを親とともに確かめることで、親子の絆を強めることにもつながります。

記憶は時がたつごとに少しずつ薄れてしまいますが、人の顔や特徴、性



格といった記憶は、よほど疎遠でない限りたいていは覚えているものです。

それらの記憶を頼りに、家系図を書いて過去を思い出すということは、自分のもっとも元気だったころの記憶や、楽しい記憶を呼び覚ますきっかけになるでしょう。過去のことをしっかり思い出すことができれば、自分の記憶に対する自信にもつながっていきます。

また、自分と子どもの関係や、父母や祖父母との関係を再確認することによって、自分の存在意義をもう一度見つめ直すきっかけにもなるはずです。

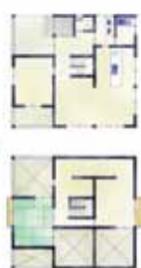
親や周囲の人々がどういった人生を送ってきたかを知ることは、自分にとって、今まで以上に親を理解する手助けになるはずです。あなたが聞き役になって、家族で家系図作りに取り組んでみましょう。

家というのも同じですが、次の世代に継承することが大切なのです。さかのぼって自分の家族のことを知ることは、当たり前です。核家族化が進み、親子、孫、親戚間の交流が昔に比べると少なくなったように思います。大切なコトやモノは、しっかりと語り継いでゆきたいものです。

アンケートにお答えいただいた方に

お部屋のレイアウトやインテリアのコーディネートに役立つ、「HABITA ドットシート」を20名様にプレゼント!

プランづくりに挑戦!



HABITA ドットシートとは
このシート上に実寸の1/100の縮尺で間取り図(プラン)を描いていただき、お持ちの家具の寸法をはかって手描きで配置ができます。購入予定の家具を自由にレイアウトしたり、間取りを考えたりと、新しい家づくりに役立ちます。

応募方法
官製ハガキに(1)住所・氏名・電話番号(2)年齢(3)職業(4)性別(5)本誌以外の購読誌(6)今までのおもしろかった記事とその理由(7)その他特集してほしい記事や内容など、以上をご記入いただき、下記係までご応募ください。締め切りは2011年2月末日。当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1
MISAWA・international株式会社「WeeklyHABITA プレゼント係」

Green Earth

「森を歩く」 2011年は、国際森林年

2011年は、国連の定める「国際森林年」(International Year of Forests)です。国連総会決議により、国際森林年では、現在・未来の世代のため、全てのタイプの森林の持続可能な森林経営、保全、開発を強化することについて、あらゆるレベルでの認識を高めるよう努力すべきとされています。

また、国連は加盟国が国際森林年に関連した活動を促進することを奨励しており、我が国でも各地で様々な取組が行われる事が期待されています。

国際森林年のこれまでの主な活動は、次のことがあげられます。

◆2010年9月：第65回国連総会において国際森林年の準備状況報告。



◆2010年12月：石川県で行われる国際生物多様性年クロージングイベントの際、国際森林年とのブリッジングセレモニーが実施。

◆2011年1月～2月：UNFF9会合(国際森林フォーラム第9回会合)の際、公式に国際森林年がスタート。

平成22年12月16日、第1回国際森林年国内委員会が開催され、我が国における国際森林年活動の推進にふさわしいテーマについて議論されました。その結果を踏まえ、農林水産省は「森を歩く～未来に向かって日本の森を活かそう、森林・林業再生元年」というテーマで決定しました。

このテーマには、国民に森林への理解を深める入り口となるとともに、暮らしの中に森林や木材を取り入れて身近に感じてほしいという期待が込められています。

HABITAは、森林とともに、成長する、新しい住まいのブランドです。

5th Room

日本庭園

海外では日本のブームが続いています。日本人の繊細さ、また美的感覚、そのデザインや品質などを言われることが多いですが、もっと奥深いものがガーデンの世界であるようです。欧米の場合は、庭は室内の延長線上にあり、たとえばヨーロッパの場合、室内のインテリアの空間を庭に出して「進出する」感覚に対して、日本の庭は、表の「自然を中に取り入れる」感覚を大切にしています。そして自然との一体感を楽しむ、それが日本の文化でもあります。

たとえ、千利休をはじめ町人たちは、広い庭を作れないので坪庭をつくり、粹とか、侘び、寂びや空気をデザインしていきます。そのころの美意識とは鴨長明の山に住んで自然を愉しむ「山居生活」が理想とされていましたが、利休は堺の商人ですから山居は無理なので市中に山居をつくらうとします。それが茶室です。そして江戸時代に入ると、参勤交代で、帰れない奥方様のために国の景色を見せるために盛んに庭が作られました。戦がなくなると、社交のための庭になったのです。そうして「おもてなしの心」の表現が洗練されていきます。打ち水をして路地を

きよめ、床の間の掛け軸や生け花などでもてなしの心を表現し、お客様はそれを見て亭主の心を察するのです。「心」のある空間や庭、そしておもてなし・・・それが日本の庭



実家のように、 長持ちする家。

「展示場を訪れた時に、柱や梁を見て、100年以上経った、今住んでいる実家に似ていると感じました。長く住めるといことが家を建てる上で一番大切だと考えていたので、この建物なら実家と同じように長持ちすると思い、HABITAを建てる事に決めました。」というK様。施工は茨城県にある提携企業、住楽工房。

「実家と廊下で繋がっているのですが、娘がハイハ



イでしょっちゅうHABITAに行ってしまうんです。」子どもにも、孫にも、そのずっと先の世代まで住んでいって欲しい。



住まいづくりにちょっと役立つドキュメントTV

HABITA/TV

HABITA/TV 検索

詳しい内容は、HABITA/TVの4ch、「住宅工房 お客様インタビュー」で紹介しています。

の文化にも通じる大事なストーリーであるような気がします。

忘れかけた日本人が、海外の人の評価にはっと我を思い出す中、再び日本風ガーデンのブームが静かに来るような気がしてなりません。庭を構成する竹垣ひとつとっても、天然のものは早く朽ち、虫が食べてしまいます。本物から型を取り、質感の高い竹の風合いを移しこんだ『エバーバンブー』というものがあります。変色にも強く、わざと古びた「古竹さらし竹」のような風合いのものもあります。

日本庭園のストーリーを多少でもわかり、人工の竹垣といっても単純に模倣しただけの情緒性の低いものでなく、いろんな材料を見比べ、そして見極めるプロの目もこれからさらに大事になっていくと思われます。

豆ハビ

紙の上よりも、
空間を感じて

見本

家づくりで欠かせない図面。何度も何度も見直し、最高の間取りを…。お金をかける私のマイホームだからもっともっと良く、と設計に時間をかける気持ちはわかるけど、大切なのはカタチよりも幸せな住まいをつくること。

細かく決めこんでしまうよりも、家族が快適に暮らす方法を見つけてゆくことに時間をかけたほうが、きっと良

きよめ、床の間の掛け軸や生け花などでもてなしの心を表現し、お客様はそれを見て亭主の心を察するのです。「心」のある空間や庭、そしておもてなし・・・それが日本の庭

Takasho

「ポーチガーデン®」 家と庭をつなぐ、もう一つの部屋。

詳しくはホームページへ! 検索



折戸パネル仕様で、フルオープンにすれば開放的なガーデンルームに。



ライティングをプラスして、夜でも快適なつるぎの空間をつくれます。



屋外で気軽に家族団らんが楽しめるもう一つのリビングとして。



5th ROOM

L+D+K+B & G (5部屋の部屋)

やすらぎのある空間づくり 株式会社タカショー 和歌山県海南市南赤坂20-1 〒642-0017 お客さまサービスセンター 0120-51-4128

